より、そう、ちから。
東北電力

発電所だより 2026年6月号

東北電力㈱女川原子力発電所総務部広報グループ
女川町塚浜字前田1　電話0225-53-3111
2026年6月発行

《２号機の第１２回定期事業者検査が終了し、営業運転を再開しました》

日頃より、女川原子力発電所の運営にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

２号機は、第１２回定期事業者検査終盤の調整運転を行っていましたが、６月９日に最終検査である「総合負荷性能検査」を終了しました。この検査では、原子炉が定格熱出力※に到達し、運転状態が安定した段階で、各部の圧力や流量などのデータを記録し、発電所全体が正常に機能していることを総合的に確認しました。この検査が終了したことにより、**定期事業者検査は全て終了し、６月９日から営業運転を再開しました。**

約５カ月間にわたる定期事業者検査の期間中には、多くの協力企業・作業員が検査に携わり、設備の点検や修理・交換など、必要な措置を進めてきました。今回は、定期事業者検査中の一部の作業や検査などの様子について、動画と写真でお知らせします。

引き続き、安全確保を最優先に安定運転に努めてまいります。

※定格熱出力：原子炉設置変更許可で認められている熱出力（原子炉で発生する熱エネルギー）の最大値

「総合負荷性能検査」でデータを
記録する発電所員（６月９日）

＜第１２回定期事業者検査の概要＞

- 実施期間：２０２６年１月１４日～６月９日（約５カ月間）
- 定期事業者検査に従事した作業員：延べ１万２千人程度
- 定期事業者検査期間中に実施した主な点検などの一部を、以下でご紹介します。

燃料交換機を使用した燃料集合体の取替え
（５６０体中８０体を新燃料に取替え）

制御棒駆動機構の分解点検
（１３７本中２０本を取り外し、１４本を分解点検し、残り６本を予備品と取替え）

復水器細管の内部の点検
（約２７，０００本の細管全数の健全性を確認）

超音波厚さ測定器による配管の肉厚測定
（配管約１７０箇所を検査）

▶以下の二次元コードから、定期事業者検査中の作業や検査に関する動画をご覧いただけます。各１分程度の動画となりますので、ぜひご覧ください。

①原子炉内に燃料を移動・装荷する作業（再生時間：４８秒）

燃料交換機を使用して、使用済燃料プールから原子炉内に燃料を移動・装荷する作業です。

②原子炉圧力容器・格納容器の蓋取り付け作業（再生時間：１分１２秒）

原子炉圧力容器・格納容器の蓋をクレーンでつり上げて取り付ける作業です。

③非常用電源設備等の機能確認検査（再生時間：３７秒）

外部電源が失われたと想定し、非常用の発電機を正常に起動させる検査です。

④原子炉起動（再生時間：３６秒）

定期事業者検査のため停止していた原子炉を起動する様子です。

《立地自治体による立入調査が実施されました》

６月８日、「女川原子力発電所周辺の安全確保に関する協定書（安全協定）」に基づき、宮城県および女川町、石巻市による立入調査（登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町も同行）が行われました。今回いただいたご要望を真摯に受け止め、今後の発電所の運営にしっかりと生かしてまいります。

調査項目

① 原子炉格納容器内水素濃度検出器の不具合に関する事項
② 湿分分離ドレンタンク下流の排水桝からの湯気発生に関する事項
③ 電源車からの油漏れ事案に関する事項
④ 主蒸気管の放射線検出器の不具合に関する事項

書面調査の様子

自治体代表（宮城県　千葉原子力安全対策課長）による調査後の講評

立入調査における自治体からの講評（抜粋）

- 水素濃度検出器の不具合については、長期的運用の観点の不足が要因の一つであると考えられる。新規の設備・機器を導入する際には、将来的な経年変化や運用期間を十分に考慮し、機器の選定や性能確認を慎重に進めること
- 新規の設備・機器を導入した後も、正常な状態で稼働するよう管理を徹底するほか、当該設備・機器に関する更なる改善へ取組むこと
- 湯気発生に関連し、保守点検等で部品を取り外した際には、本来あるべき形状を維持しているかの確認を徹底し、部品の欠落を見逃すことのないよう、現場作業員への教育・訓練を徹底すること
- 調査項目の②～④の事象の原因究明と再発防止対策を行うとともに、これまで以上に地域住民や県民、立地自治体に対し丁寧な情報公開に努めること

今回の立入調査の項目となった４件のうち、以下の３件の事象について、「女川原子力発電所の状況（２０２６年５月分）」でお知らせしております。詳細は右のアクセス先の「別紙」でご確認いただけます。

詳細はこちら

■湿分分離ドレンタンク下流の排水桝からの湯気発生

５月１５日、タービン建屋地下２階復水器室において排水桝から放射性物質を含む微量の湯気が発生しました。５月１６日に原子炉を停止して点検をした結果、排水桝につながる弁に薄い金属片が挟まっており、密閉性が低下していたことを確認しました。その後、金属片を除去し、正常な状態に復帰しました。

■電源車からの油漏れ

５月１９日、重大事故等発生時の指揮所（緊急時対策所）の代替電源設備である電源車について、発電機用の軽油タンクの接続ホースから、軽油の滴下を確認しました。同日、同型の電源車への入れ替えを行うとともに、５月２２日に接続ホースを交換しました。

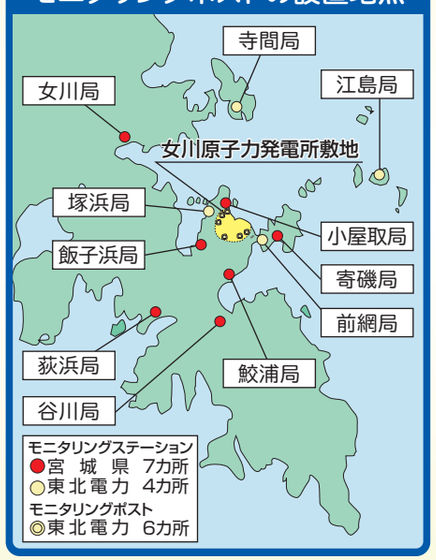
■主蒸気管の放射線検出器の不具合

５月２４日、原子炉で発生した蒸気をタービンに送る主蒸気管の放射線量を測定する検出器４台のうち１台において、検出器の指示値が正しい値を示さない状態になり、その後、通常値に戻る事象が発生しました。調査の結果、原因は指示値を伝送する機器の一時的な伝送不良によるものと推定しました。設備の使用上問題はないものの、今後の運転に万全を期す観点から、予防保全として６月５日に当該機器の取替えを実施しました。

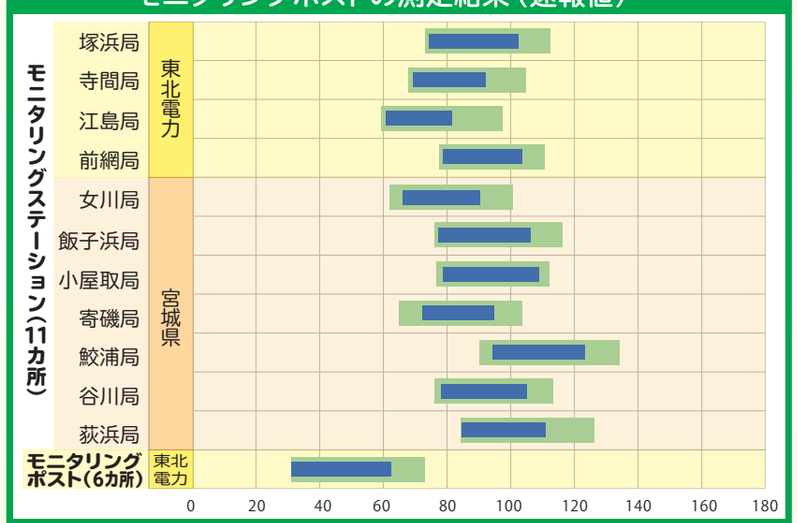
《発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングステーション※1やモニタリングポストで測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。２０２６年５月の測定結果は以下のとおりで、発電所周辺の放射線量は安定しており、発電所の運転による有意な変化はなく、環境への影響はありません。

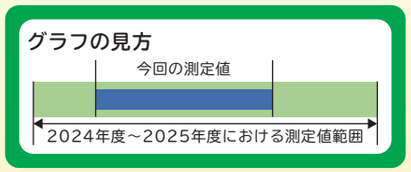
モニタリングステーションとモニタリングポストの設置地点



2026年5月のモニタリングステーションとモニタリングポストの測定結果（速報値）※2



単位：ナノグレイ／時

※１モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※２モニタリングポストの測定値は、検出器の種類が異なるため、宇宙線（宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線）の影響分が含まれないことから、モニタリングステーションの測定値より20～40ナノグレイ/時程度低い測定値となっています。